

60 数年ぶりの再会

藤本 勇

むかし山岳部に中川修男様(6期生)がおられました。卒業いらい音信不通でしたが、同窓会報に100周年記念の募金者名簿に名前が掲載されていたので同窓会事務局に問い合わせして、やっと住所が判明しました。

彼は大学卒業後、三洋電機に就職され岐阜に定住されました。三洋時代に東芝の野口幹夫さんとも仕事のうえで付き合いがあったと聞きました。

連絡がとれて高村君が中川氏を大阪での音楽会にでる途中で JR 京都駅での再会が実現できました。2年後輩の中島康昌君も参加されました。



(左より中川氏・高村氏・中島氏)

彼からは次のようなメールをいただきました。(藤本勇)

5月29日」に因んで

中川修男（6期生）

福岡市にご在住の藤本勇様のサポートを得て、＜高村泰樹様、中島康昌様＞のご両兄と60年ぶりの再会の機会に恵まれ、短時間とは云え「至福のひとつとき」でした。

当日、初めての北アルプス「後立山連峰」縦走時の＜写真＞を見せていただきましたが、過日藤本様から配信・添付を戴いた「クラブ活動」記録と照合致しました。

瀬谷先生が「白馬鑓ヶ岳」まで一緒だったとは瀬谷先生には失礼ながら、覚えが無かったです。また秋山先生とは「針の木岳」まで一緒とばかり想っておりました。

縦走の途中、ご同行の皆様は絶えず目の当たりにする「劔岳」に関心を持っておられたことを思い出します。

初心者の小生にとっては「その関心に対する中身」は判別できませんでしたが、稜線を南下するにつれて変容するその山姿に何か畏敬の念を抱いた気はしております。

藤本様とその他の方の引率を得ての「春の五竜岳」、藤本様による当時の「登頂記」と過日の高村様との「思い出話」から、当時の小生の登山技術からすれば「技量を凌駕する誠に手ごわい山」であったと述懐いたします。

しかし、あの経験を糧にして、高村様にも「春の白馬岳」に引率して戴けたのではと今では「その山行」の実現に誇りを抱いております。

他方、高村様から＜弟の直助様＞について近況を聞かせて戴き、嬉しい限りです。氏とは、確か「冬の位ヶ原（乗鞍岳）、伊吹山」には一緒だったと記憶していますが、当時は小生宅の別棟が「6期生有志の溜り場」になった時があり、皆が「高村君も呼ぼう」との一声で一緒になって語り明かしたこともあったのではと想っております。

＜訃報＞に関してですが、

- ・藤本様には重複しますが、「岩崎雅行氏」は約10年前に内臓疾患にて故人になりました。奥様も同期で渡辺橋近くの「中央電気倶楽部」において「偲ぶ会」をもちました。
- ・「福田等氏」については、過日の席上では自信がなかったので「消息不明」めいた表現を致しましたが、後日「群芳 2006年版」において「物故者欄」に記載されている旨を知りました。

注)「中央電気倶楽部」

戦災を免れた僅少の古いビルですが、毎年1月＜6期生の有志＞が集まり、恒例の

「新年会」を開催しております。

<教えてください>

「劔岳」に関してですが、絶景スポットとして<仙人池からの裏劔>の映像紹介を目にします。あの光景から「上部から左下への岩稜は八ッ峰、そしてその手前の雪渓は三の窓と想像しておりますが、如何でしょうか？

<針の木岳雪渓下の大沢小屋におられた麗人について>

過日、その当時の加藤先生評を披露し、併せて作家井上靖氏の作品にも同様の表現があった旨を話題にしました。

井上靖氏の単行本は購読の経験がありませんので、「誌 or 紙」面で読んだ紀行文かと思えます。

わが町の「図書館」で探索してみましたが、「小説」しかなく、恐らく「紀行文集」の中にはと想像しております。

あの当時の模様を想起すると「針の木、大沢小屋」のオーナーは百瀬氏でしたので、オーナーのご夫人かと想像しております。

<余談になりますが>

あの夜、<マラー>を聴いた帰り、「阪神百貨店の新館がどちらの隣にオープンなのか？」と関心を持っておりまして、梅新交差点においてタクシーの中から注視しました。<御堂筋側>に新しいビルを見出しましたので、それが<6月1日開店の新ビル>のようですね。

最近とみに、故郷<大阪>の変容に関心を抱いておりまして、4月にも「文楽公演」開演の前に「通天閣」に上りました。

「黒門市場」と同様に、<中国人>らしき人たちが賑わっておりました。

また機会に恵まれて「5月29日」の続編が再現できますように、期待いたしております。京都駅の途中下車は<昼過ぎ>とは限らず「文楽公演：昼の部」鑑賞の時は<15:30終演>になりますので、日程・時間調整は如何様にもOKです。

皆様方のご健勝を祈っております。

2018年6月

中川修男 拝